

新潟県立植物園

植物園だより



ワサビ

Wasabia japonica

〈アブラナ科〉

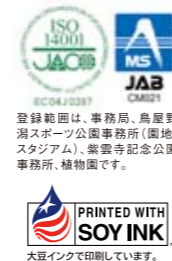
アブラナ科ワサビ属の在来の多年草。5月から6月に白い花を咲かせる。根茎は太い円柱形で多くの節があり香辛料となる。

静岡県天城のワサビ栽培が有名で、太く立派な根茎が収穫される。これは、湧き水を利用したワサビ田で栽培されるためである。天然のワサビは溪流沿いの比較的水はけの良い広葉樹林下に生えていることも多く、人差し指程度の太さにしかない。

(田中良明)

ワサビ 富樫信平 画 1988.4.16 新潟県荒川町産

Volume 40
2010 spring



登録範囲は、事務局、鳥屋野湯スポーツ公園事務所(園地・スタジアム)、養蚕寺記念公園事務所、植物園です。

大豆インクで印刷しています。

花と緑の教室

会場(または集合場所):花と緑の情報センター

※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 4月4日(日)10:00～12:00 「ツバキ 花後の管理」
講師:石井たき(新潟県花つばき協会) 定員:30名 参加費:無料
- 4月22日(木)10:00～11:30 観察ツアー「見てみよう!雑草①」
講師:田中良明(当園職員、樹木医) 定員:15名 参加費:無料
- 4月28日(水)10:00～11:30 ガイドツアー「シャクナゲ・ツツジ」
講師:倉重祐二(当園副園長、NHK趣味の園芸講師)
定員10名 参加費:温室入館料
- 5月9日(日)10:00～11:30 ガイドツアー「ボタン観賞と育て方」
講師:田中良明(当園職員、樹木医) 定員:15名 参加費:無料
- 5月16日(日)10:00～11:30 「春の寄せ植え」
講師:永井明子(当園職員) 定員:15名 参加費:1,500円
- 5月22日(土)10:00～11:30 「バラの育て方① 植え付け」
講師:佐藤七郎(新潟ばら会副会長) 定員:15名 参加費:無料
- 5月23日(日)10:00～11:30 「クレマチスの管理」
講師:鈴木光一(日本クレマチス協会会員) 定員:30名 参加費:無料
- 6月10日(木)10:00～11:30 「見てみよう!雑草②」
講師:田中良明(当園職員、樹木医) 定員:15名 参加費:無料
- 6月13日(日)10:00～11:30 「ハーブを使った寄せ植え」
講師:林寛子(当園職員) 定員:15名 参加費:1,000円
- 6月20日(日)10:00～11:30 「マツの剪定」※24日と同内容です
講師:田中良明(当園職員、樹木医) 定員:10名 参加費:無料
- 6月24日(木)10:00～11:30 「マツの剪定」※20日と同内容です
講師:田中良明(当園職員、樹木医) 定員:10名 参加費:無料
- 6月27日(日)10:00～11:30 「山野草でミニ盆栽!」
講師:片岡充(片岡笑幸園) 定員:20名 参加費:2,000円

花と緑の相談コーナー

専門相談員がわかりやすくお答えします。

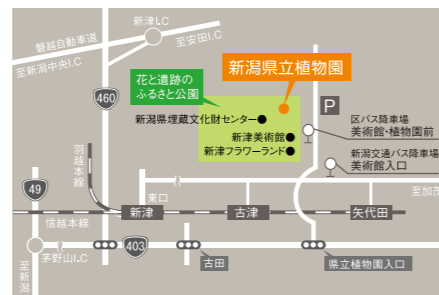
来園のほかFAX、電子メールでもお気軽にお問い合わせ下さい。

専用ダイヤル 0250-24-6437

相談受付日 水曜・日曜 10時30分～15時

新潟県立植物園 Podcast seedPod SeedPodの植物解説

園内では、携帯音楽プレーヤー(iPod)を使った植物展示解説【seedPod】(シードポッド)を行っています。プレーヤーは入館券売場にて無料でお貸ししています(身分証明書提示必要)。ぜひお試しください。



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 4月11日(日)まで 「チューリップ展 咲け! チューリップ」
- 4月14日(水)～5月23日(日) 「シャクナゲ・ツツジ展」
- 5月26日(水)～7月4日(日) 「絶滅危惧植物展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 4月18日(日)まで 「アッセンデルフトフローラルアート作品展」

花と緑の情報センター 特別展示

- 4月2日(金)～4日(日)「春の大つばき展」
新潟県花つばき協会・県立植物園共催 ※観覧無料

観賞温室第3室 特別展示

- 4月27日(火)～5月5日(水・祝) 「春の山野草展」 出展:小国山野草会
4月29日(木・祝)は小国の物産販売、ドライフラワーを使ったフォトスタンドづくり教室あり(参加費500円・先着50名)

イベント

「春の植物園まつり」

5月4日(火・祝)・5日(水・祝)

- バックヤードツアー
- ミラクルフルーツ試食会
- ミニツリークライミング(5日のみ)
- 植物素材を使った体験教室
- 物販(植物・食品) など

※詳細は4月中旬頃ホームページに掲載します。

「にいつ花ふるフェスタ」

6月6日(日)

主催:にいつ花ふるフェスタ実行委員会

- にいつ食の陣当日座
- 花ふるロールケーキづくり
- 音楽イベント など

図書のご案内

※温室入館券売場にて販売しています。



「ようこそ緑の夢王国新潟県立植物園」
1,200円

新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しみむきかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

●観賞温室利用案内

開館 9:30～16:30(入館締切16:00)

入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円

※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

4							5							6						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	・	23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	・	・	・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分

一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分

J R/信越線古津駅から徒歩約20分

バス/区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分

新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き

「新津美術館入口」下車徒歩約10分



シャクナゲ・ツツジ展

企画展示

平成22年 4/14(水) - 5/23(日)

シャクナゲやツツジはツツジ属 (*Rhododendron*) に属し、日本にはホソバシャクナゲ (*R. makinoi*) やツクシシャクナゲ (*R. degronianum* ssp. *heptamerum*) などのシャクナゲ類、ヤマツツジ (*R. kaempferi*)、サツキ (*R. indicum*) などのツツジ類が多く自生し、古来より親しまれてきました。「万葉集」には、ツツジを万葉仮名で「管自」または「管仕」と記しています。その後、伝来した中国の本草書により「羊躑躅」(レンゲツツジ) の名が伝わり、ツツジに躑躅の字もあてられるようになりました。

一方、「躑躅」には、たたずむ、ちゅうちょするの意味があります。これはレンゲツツジの葉に毒があり、羊が食べることをためらうことに由来します。日本での「ツツジ」の音は、花形が筒状であることから「筒咲き」が転訛したとの説がありますが、語源は分かっていません。

ツツジ属はたいへんよく似ていますが、細かく観察すると15のグループに分けることができます。今回はツツジ専門家の園葉里博士が登場し、代表的なツツジ属をズバリ!ズバリ!と分けながら「分けるためのポイント!」を教えます。



左からオニバス、サギソウ、カキツバタ 絶滅が危惧される

絶滅危惧植物展

企画展示

平成22年 5/26(水) - 7/4(日)

わたしたちの暮らしには植物が欠かせないものとなっています。衣、食、住や薬など植物が原料として使われることは多く、また植物で癒されたり、楽しみながら植物との関わりを持つ機会も増えています。改良により新たな品種が増えていく一方で、自然の中にある野生植物の中にはその種が途絶える危険性をもつものもあります。サギソウやフジバカマなど、なじみのある植物でも実は絶滅の一途をたどっています。

昨年は絶滅危惧植物の概要をご紹介します、現在の植物が置かれた危機的な状況をご紹介します展示としましたが、今回は「絶滅危惧植物」をよりわかりやすく、より身近に植物や自然の大切さを多くの人に感じてもらえるような展示を企画しています。



昨年の展示状況

園内ウォッチング

温室●熱帯のシャクナゲ…ビレアシャクナゲ

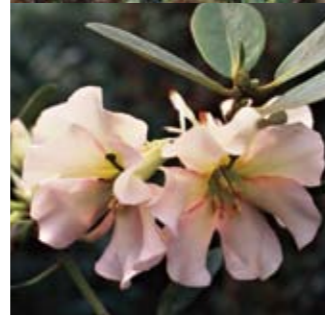
熱帯ドーム温室には、熱帯に分布するツツジのなかま(ツツジ属)であるビレアシャクナゲが数多く植栽されています。ビレアシャクナゲは、ニューギニア島やボルネオ島などの熱帯アジアの高地に300種以上が分布し、マレーシアシャクナゲとも呼ばれます。ビレアシャクナゲは、主に樹木や岩などに着生して生活し、ドーム温室では自生地で生育しているように石垣にも植栽しています。

ビレアシャクナゲの生育する熱帯では、花粉を運ぶ虫や鳥の競争競争が激しいため、花は鮮やかで香りのするものが多くあります。また、受粉に多種多様な動物を選択的に利用するためにさまざまな花の形に進化しています。例えば、レプタンツム (*Rhododendron leptanthum*) の花は円筒形で、花には蜜が多く、で鳥(ミツスイ)に花粉を運ばせています。

熱帯の植物は、ビレアシャクナゲ以外にも、その地域に生息する動物と密接なかかわりを持っているものも多く、動物と植物の関係を想像しながら温室を観察するのも面白いものです。(橋本 永)



ビレアシャクナゲ レプタンツム (*R. leptanthum*)
ドーム温室では自生地に近い環境である石垣に植栽している。



ビレアシャクナゲ ファエオペルム (*R. phaepelum*)
大型で蜜の多い花をもつ。コウモリが花粉の媒介をする。



ビレアシャクナゲ ロランティフォルム (*R. loranthiflorum*)
花は長い筒形で、香りがある。蛾が花粉を媒介する。

園地●ツツジのなかま

4月から6月にかけて、ツツジ園では50種を超える野生種が見ごろを迎えます。九州南部に分布するヒュウガミツバツツジを皮切りに、ミツバツツジのなかまでは珍しく朱赤の花を咲かせるオンツツジ、径2cmほどの花をたくさんつけるウンゼンツツジなど、日本各地から集められたコレクションを見て歩くことができます。

また、園内の各所でツツジの園芸品種や大きく育ったシャクナゲが華やかな姿を見せてくれるほか、同じツツジ科の植物で、釣鐘型の花を房状につけるリュウキュウアセビや、コンペイトウのような蕾がひらくと小さなランプシェードのようになるカルミアなどもこの時期に花を咲かせます。(林 寛子)



ウンゼンツツジ
Rhododendron serpyllifolium
伊豆半島以西、四国、九州の一部に分布する。



モチツツジ '花車'
Rhododendron macrosepalum 'Hanaguruma'
花弁が細く5つに分かれる古い品種。宿根草花壇に植栽。



シャクナゲ 'サー・ロバート・ピール'
Rhododendron 'Sir Robert Peel' (左)
西洋シャクナゲは豪華な花を咲かせる。右は満開のカルミア。



ヒュウガミツバツツジ
Rhododendron hyugaense
植物園の中でもいち早く花を咲かせる。



オンツツジ
Rhododendron weyrichii
近畿地方から四国、九州に分布。



カルミア
Kalmia latifolia
変わった形の花がかわいらしく、園内でも人気の高い花木。



リュウキュウアセビ
Pieris koidzumiana
花、花房ともに大型。ツツジ園で見ることができる。

NEWS 1

魚沼市生物多様性保全 シンポジウムが開催されました

平成21年12月6日(日)に魚沼市で魚沼市生物多様性保全シンポジウム「つなごう 魚沼のいのち」が開催されました。当園は、中越地震により自生地が破壊された魚沼市広神地区のオキナグサの保全活動を、平成16年から地域の方々と共に進めています。今年度も引き続き環境省の生息域外保全モデル事業の助成を受け、広神西小学校と協同で、オキナグサの栽培、植え直し活動を行いました。この事業の一環として魚沼市、魚沼市教育委員会、当園との共催によりシンポジウムを開催し、広神西小学校の児童と一緒に、活動の様子を紹介しました。子供たちは、小学校や近くの大人たちに「オキナグサを知っていますか」、「守っていかねばいけないと思いますか」などのアンケートをとった結果や、オキナグサの種子の形態などを分かりやすく発表してくれました。

こどもたちの発表のほか、環境省の生息域外保全の活動、日本の植物園の保全活動、さらに魚沼特使の大桃美代子さんの郷里復興の活動についての特別講演がありました。

パネルディスカッションでは、魚沼地域の植物調査はまだ不十分で、これから希少な植物も発見される可能性が大きい地域であること、植物を保全するには、行政だけでなく、地域の人、これから社会を担う子供たちみんなの協力が不可欠であることが確認されました。

今回のシンポジウムは200人以上の参加があり、地元の方々の関心の高さがうかがえました。オキナグサをきっかけに保全活動の輪が広がり、さらに地域の方々の和も広がっている様にも感じました。(橋本 永)



シンポジウムの様子
広神西小学校の児童が、オキナグサについて調べたことを分かりやすく発表。



今年の秋の植え直し作業の様子。高さ5cmほどの小さなオキナグサの苗を植栽した。



植栽したオキナグサの苗

NEWS 2

当園から生中継!

去る1月23日(土)に当園をメイン会場に「元気一番生テレビ」が放送されました。放送エリアは東北6県と新潟県。当園にとってはめったにない1時間にも及ぶ大規模な生中継です。

今回のテーマは「花と緑による町おこし」。当園の位置する秋葉区は古くからの花卉生産の盛んな地域です。特にアザレアは全国生産量の90%以上を占める大産地です。

番組はアザレア展の会場を中心に進められ、地域の花卉生産やアザレアのお話のほか、熱帯植物や水草の展示の紹介、新津地区で栽培が盛んな野菜ブチヴェールを取り入れた商品開発を行う地元菓子組合のお話など、当園スタッフのみならずボランティア、地元の方にも多数出演いただき、盛りだくさんの内容でした。

番組進行役でタレントの片岡鶴太郎さん、内山信二さんの楽しいトークにあっという間の1時間。花あふれる秋葉区と当園の魅力を広く県外へ発信できるよい機会となりました。(大谷史絵)



平成22年1月23日(土)10時30分~11時25分「元気一番生テレビ」
(制作:ミヤギテレビ/テレビ新潟)



会場の様子

NEWS 3

「花の新品種inにいがた」開催

3月10日から14日にかけて、当園を会場に、新潟市の食と花の世界フォーラム組織委員会と県立植物園との主催による「花の新品種inにいがた」を行いました。

県内外から各地の育種家、研究者の情熱のたまものである、およそ130品種の花が展示され、来場者の目を引いていました。

期間中には、雪割草育種の第一人者である岩淵公一さんの講演や、当園倉重副園長によるチューリップをテーマにした講演を行い、関心をもつ多くの皆さんにお集まりいただきました。

(林 寛子)



話題をよんだ雪割草'幽愁'

NEWS 4

チューリップの写真募集

昨年9月21日敬老の日に温室内でプレゼントしたチューリップの球根。皆さんのお庭できれいに咲いた様子を写真でお送り下さい。お送りいただいた写真は5月1日(土)から9日(日)まで観賞温室に展示します。応募者全員に温室入館券をペアでプレゼントします!どしどしご応募下さい。

応募方法 ●持参・郵送の場合(写真の返却はしません)

あて先 〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地 新潟県立植物園「チューリップ写真」係

●メールの場合 アドレス botanical@greenery-niigata.or.jp

件名に「チューリップ写真」と明記して下さい。

・応募締切 4月30日(金)必着

・サイズ不問(メールの場合、プリントアウトできるサイズ)

・応募の際、お名前、電話番号をお知らせ下さい。(展示の際にお名前の公開を希望されない方はお申し出下さい)

※応募の際に必要な個人情報については、個人情報の保護に関する法律に従い、適正に取り扱います。また、応募された写真は今回の目的以外には使用しません。

体験教室開催の様子



NEWS 5

体験教室の 開催募集

植物を使ったり植物をモチーフとした作品づくりの教室を開催していただける方を募集しています。これまでにリースづくりや木工作品製作などの教室を開催しました。会場は観賞温室内で、開催にあたり会場使用料などの費用はかかりません。

●詳しくは、お電話にてお問合せください。

TEL.0250-24-6465 (担当:永井)

新潟の植物

ユキツバキ

Camellia japonica var. *decumbens*



ユキバタツバキの花

ユキツバキは、滋賀県から秋田県にかけての日本海側に面した低地平野部から丘陵帯などの多雪地帯に分布し、いわゆる日本海要素の代表的な植物です。広域にわたり分布していますが、局所的にみると、丘陵地などの雪融けの早い南斜面には生えず、北斜面の消雪の遅い地形に多く生育しています。当園の所在する秋葉丘陵の金津地区でも、北斜面に建つ堀出神社などで分布がみられます。地形や方角によって、積雪の少ない年には雪で保護されずに寒風を受けてしまうため生育できないのではないかと考えられています。

ユキツバキはヤブツバキと自然交配しやすく、中間種のユキバタツバキが分布している地域があり、場所によってはヤブツバキの特徴が強い群落、ユキツバキの特徴が強い群落があります。秋葉丘陵内でも、場所によりいろいろなタイプのユキバタツバキが生育しています。

民家近くにも生え、身近な植物であったのか、昔は山菜として、おしべを取り除いた花をてんぷらや茹でて酢の物にして食べていたそうです。機会があれば一度食してみたいと思っています。(橋本 永)



秋葉区金津お茶山のユキツバキ(ユキバタツバキ)



長い花房



入り組んだ根元

新潟の天然記念物

八王寺の白藤

燕市八王寺にある安了寺のフジは、1958年に新潟県の天然記念物に指定された名木です。東西50mに張るといわれる枝は境内いっぱいになり、見ごろとなる5月中旬には、長い花房が無数に垂れ下がり、甘い香りが漂います。

江戸時代貞享年間(1684～1687年)、お寺の転派とともに植えられ、樹齢は300年を超えるとされています。歳を重ねた根元をみると、その歴史と、この先も移り行く時代を見守っていく意思を感じずにはられません。

現在は、有志の保存会のみなさんが剪定や施肥などの手入れを施しているそうです。そのかいかがあり樹勢はますますさかんで、これからも長く我々の眼を楽しませてくれることと思います。(林 寛子)



雲のように広がる白藤

友の会通信

友の会ブログ 随時更新しています

ブログを立ち上げて早8ヶ月が過ぎようとしています。投稿も少しずつ増えてきています。その一部を紹介します。



安田フラワーガーデンの「洋ラン展」が盛況の様ですが、県立植物園でも「洋ラン展」がはじまりました。

安田のような派手さはありませんが、熱帯温室に展示されている洋ランは既存の植物にとけこみ、熱帯雨林の中で観察しているようです。また、他ではあまり見かけることのない珍しい品種も多くあり、安田とはまた違った楽しみ方ができます。

第二温室の通路には、洋ランについての解説パネルがあり洋ランについての知識を高めることができます。第二温室に下りて行くと洋ランの愛好団体の展示があり、皆さんが大事に育てた洋ランを見ることが出来ます。第三温室を出たところには洋ランの販売もあり、いろいろな楽しみ方が出来ます。

安田フラワーガーデンと県立植物園、両方の「洋ラン展」を比べてみることをお勧めします。(会員 1さん)

野鳥観察会を行いました

1月30日(土)に地元の松井省磨さんを講師に野鳥観察会を行いました。年間の活動予定には無かったのですが、松井さんが会員のお知り合いであったことから、急遽開催することになりました。

あいにく当日の天候は雨が降ったり止んだり、思うように観察はできず、雨の晴れ間に外へ出て植物園の池に飛来している水鳥を観察しました。マガモ、コガモ、カワウ、オオバンそしてミサゴ、ハシボソガラスと6種類程度しか見られませんでした。種類が少ない分、一種一種を詳しく観察することができました。外から戻り、屋内では、先生が撮りためた写真を紹介してくださいました。会員の方が御自宅や植物園内で撮影した鳥の写真が紹介されました。アカゲラも訪れていたとは驚きでした。

観察会の後、参加者の皆さんに川柳を詠んでもらいました。



アカゲラ(会員が園内で撮った写真) 運が良ければ、キツキの仲間、カワセミなども園内で見ることができるとのこと



ヤマガラ(会員が自宅で撮った写真)



観察会の様子:山の方の高い木にミサゴが羽を休めているのを見ているところ



オオバンも観察できた

●参加者が当日詠んだ川柳

オオバンと コガモとマガモを 覚えけり
鴨ながめ 冬荒天の 日も楽し
ふゆのいけ まがもとこがも かがやいて
植物園 鳥も人も 同じ絵の中
よくみれば かもからすも とりそれぞれ
マガモたち みずをハバタキ すずしそう
おんぼろの すばこにすむは すずめのみ
カモだけは 毎年ここに 来てくれる
水鳥は 冷くないかな 風邪ひくな
カモたちも アザレアながめ 春をまつ
水鳥の、とびたつ音と、逃げ帰る

新潟県立植物園 友の会会員募集

友の会会員を随時募集しています。興味のある方は友の会事務局(新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465)までお問い合わせ下さい。

友の会ブログもご覧下さい

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで、携帯電話からも投稿できます。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員(わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています)敬称略

- 齋藤圭子 ●藤田秀雄 ●小林測量株式会社新発田支店 ●株式会社アート ●株式会社原常樹園
- 有限会社円環境計画 ●株式会社アート環境設計